

アルジェリア政治・経済月例報告  
(2018年5月)

平成30年6月  
在アルジェリア日本国大使館

1 内政

- 1日、ベドゥイ内務・地方自治・国土整備相は、ブーテフリカ大統領名代として、ウアルグラ県のソナトラック施設で開催されたメーデーの公式記念行事に出席し、財政的困難にも拘わらず国の社会保障政策を堅持するとの大統領声明を代読。
- 5日、ダルバール独立高等選挙監督機構(HIISE)代表は、ベドゥイ内相、ルー法相臨席の下、選挙監視に係るワークショップを開催し、40の政治団体が参加するも、FLNとRNDは欠席した模様。選挙結果の確定が遅延するのは、同機構に責があるとする主張が諸政党からなされている中の本件欠席は、二大政党が同機構を軽視するものとの論評が報道される。
- 9日、ベドゥイ内務・地方自治・国土整備相はチュニジアと国境を接するアンナバ県にて警察署等を新規開設し、麻薬対策キャンペーン強化を指示。
- 12日、ベドゥイ内務・地方自治・国土整備相は、大統領の命によりイリジ県ジャネットを訪問し、県庁所在地からジャネットまでのガス・パイプライン事業(370km, 137億ディナール, 裨益者約4,500人)の最終段階施工式に出席。
- 13日、「平和のための社会運動」(MSP)諮問評議会はムクリン党首を党首として再選。有力対抗馬と目されたスルター二元党首・元国務相は立候補辞退。
- 15日、ブーテフリカ大統領、アルジェのザーウィヤ(スーフィーの修行所・モスク。収容能力300人)の開所式等のため市内視察。
- 研修医等のストは5月中も継続。

2 外交

- 2日、当国外務省報道官は、同日、同省次官が当地モロッコ大使を召致し同大使に対して、モロッコとイランとの外交関係断絶の発表に際して、アルジェリアを間接的に問題とするモロッコ外相による全く根拠がない発言を拒否する旨伝えたと述べた。
- 6日、アル=アラビーヤのネットサイトは、在アルジェリア・イラン大使館のアミール・ムーサヴィーは文化担当外交官とされているが、実は、西サハラ問題を巡るアルジェリアとモロッコの係争に関与するイラン情報機関要員と報

道。

● 9日、楊中国大使はアルジェリア赤新月社にてベンハビレス同社代表に西サハラ難民支援のため小切手一千万ディルハムを供与。報道では当該小切手を持ったブハビニー・西サハラ赤新月社代表と中国大使がベンハビレス代表を中間に握手している写真が掲載。

● 14日付政府系シャアブ紙等は、モロッコ外相がアルジェリア非難を「ジュンヌ・アフリック」誌インタビューで述べたこと（モロッコ外相が、イランによるポリサリオ戦線支援にアルジェリアが直接関与した旨発言）に対し、ベナリ・シェリフ外務報道官声明にて遺憾としたと報道。

● 15日、ブーテフリカ大統領は、イスラエル占領軍がパレスチナ文民に対する敵対行為を継続し、ガザの境界における同軍の銃弾により、パレスチナ人50人以上の殉死者と1700人以上の負傷者が出たとの報に、大変な心痛と遺憾さをもって接した旨アッバース大統領に電報を送った。

● 21日、リビア近隣3か国（アルジェリア、エジプト、チュニジア）外相会合がアルジェにて開催され、軍事的選択と外的干渉を遠ざけた、対話と和解に基づく政治的解決が、リビア危機を終結させる唯一の方策と強調される。

● 21日、ジトゥニ・ムジャヒディン相は、離任挨拶のため来訪したチェ（CHOE Hyok Chol）「朝鮮人民民主主義共和国大使」と会談し、両国間の歴史的関係、及び異なる分野における両国協力関係拡大の方策について協議。

● 24日付国営APS通信は同日付外務省声明を引用し、「アルジェリアがサブ・サハラ地域からの移民に対する義務を怠ったとする、ここ数週間来のいくつかのNGOによる悪意のキャンペーンを強く否定する。不法移民の本国帰還に向けた国境へエスコートは、人権が尊重された上、当該本国との協議によって行われている」旨報道。

● 30日、ベンサラ国民評議会議長は、離任挨拶のため来訪したチェ（CHOE Hyok Chol）「朝鮮人民民主主義共和国大使」と会談し、アルジェリアは、友好国北朝鮮との関係を重視していると強調した。本国会談では、両国の指導部が、協力分野の拡大を通じ両国関係の進展を望んでいることについて触れられた。

### 3 治安

● 7日、国立麻薬対策局主催の麻薬常習・暴力に関するセミナーが開催され、同セミナーによると近年特に乱用されている薬物は向精神薬である。2017年の押収量は前年比2倍の2,201,000錠で治療対象となった常習者数は2016年現在210,507人である。有識者は向精神薬物等の乱用とサッカー競技場、学校、家庭における暴力行為は密接に関係しているとの見解を示した。

● 13日、オラン県の研修医デモが行われた。デモに参加した研修医はオラン大学病院に集合し、同県保健省支部まで街頭デモ行進を企図するも、警察部隊がデモを阻止した。研修医自主連合（CAMRA）によれば複数の研修医が負傷したとのことである。CAMRAは警察の暴力と当局の無理解を「人殺しの政府」と激しく非難した。

● 24日付報道によるとサヘル諸国からアルジェリアへの不法移民国外追放に国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）や複数の人権NGOが非難している。OHCHR等はアルジェリアから不法移民を人権意識の低い出身国に追放することは移民・難民の人権に関する国際法を遵守していないとアルジェリア政府を非難しているが、アルジェリア政府は毎日500人、毎週3,500人、年間9万人もの移民がアルジェリアに押し寄せており、密入国者・不法滞在者の取締りは国内法、国際法にも合致していると反発している。

● 28日付報道によると最近、軍当局はタマンラセット県の治安維持に特別に注意している。同県は多くのテログループが活動するサヘル地域と隣接するため、国境からのテロリスト侵入にさらされている。軍当局は、サヘル地域からのテロ分子流入のみならず武器や麻薬密売など地域に跋扈する諸悪と戦う必要があり、県庁所在地タマンラセット地区を含む県内各地で大規模部隊による掃討作戦を行っているとした。

#### 4 経済

● 2日、ジェラブ商業相は、「消費者保護と詐欺防止に係る2009年の法律」の改正法案を国民評議会に提出。アフター・サービス及び契約取り消しに関する規定を国際基準に合わせたものに改定するものと説明。

● 8～13日、第51回アルジェ国際見本市が開催。国内外から700を超える企業が出展。中国が特別招待国。8日には、ウーヤヒヤ首相が日本パビリオンを視察した。

● 9日、ソナトラック社は、エッソ・イタリアナ社との間で、伊シチリア島のアウグスタの石油精錬所及び同国内の三つの石油貯蔵地の買収に関する契約に署名した。

● 11日、ソナトラック社とトタル社は、アルズーの石油化学工場建設に関する協約に署名。投資額は15億ドル。当国で初めてのプロピレン及びポリプロピレン生産工場となる。

● 15日、ギトゥーニ・エネルギー相は、露ソチで開催された第10回国際原子力エネルギー・フォーラムのマージンで、露のリハチェフ国営核エネルギー

公社（ROSATOM）社長と会談。両国の原子力エネルギー分野での協力について協議。

●16日、電機大手コンドール・グループのベンハマディ会長がチュニスでエセブシ・チュニジア大統領を表敬。17日、同グループがチュニジアに年30万台のテレビを生産できる工場を建設し、2019年より稼働予定と発表。

●21日、関税庁が本年1月～4月の貿易統計を発表。貿易赤字は8億5600万ドルで、昨年同時期の38億7800万ドルに比べ78%減。原油価格の上昇により輸出高が伸び昨年同期比18.6%増の143億6800万ドル。一方、輸入高は種々の制限措置にもかかわらず減少幅は前年同期比の4.82%減に留まり152億2400万ドル。なお、主要貿易相手国は以下のとおり（括弧内の数字は全体に占める割合）：

【輸出】

- 1 伊：19億2100万ドル（13.4%）
- 2 西：17億4000万ドル（12.1%）
- 3 仏：16億ドル（11.1%）
- 4 米：14億ドル（10%）
- 5 英：8億2700万ドル（5.7%）

【輸入】

- 1 中：23億ドル（15.13%）
- 2 仏：15億5000万ドル（10.2%）
- 3 伊：12億2000万ドル（8%）
- 4 西：11億7000万ドル（7.7%）
- 5 独：11億2000万ドル（7.4%）

●21日、ソナトラック社は同社が本年第一四半期に輸出した炭化水素が2720万トンで、昨年同期比較3%減であったと発表。

●22日、アルジェリアン・モーターズとメルセデス・ベンツとのジョイントベンチャー（SPA AMS-MB）が国防省に計410台のトラック及びバスを納品。

●27日、国家統計局（ONS）は2018年4月までの12か月間における消費物価のインフレ率を4.3%と発表。月別の比較では、2018年4月の消費物価は前月に比べ0.6%上昇。

●29日、SOVAC社が新たなSUV車、シート・アロナの生産と販売の開始を発表。本年中に4000～5000台を生産し、15%超の現地調達率を達成するという。

●29日、ソナトラック社のカドゥール会長は、オックスフォード・ビジネス・グループが運営するビデオチャンネルのインタビューの中で、同社が今後石油

化学分野の事業を重視していくこと、全ての油田・ガス田で太陽光発電の利用を進めていくことなどを表明。

●30日、租税総局長はAPSのインタビューに応じ、2017年の国庫の実収入に関し、以下のとおり詳細を発表（括弧内は前年比）：

通常収入： 3兆 764億ディナール（7.7%増）

石油関連税収：2兆1269億ディナール（26.4%増）

総収入： 5兆4329億ディナール（14.2%増）

総収入に占める石油関連税収の割合は39.2%。なお、2017年予算法における石油関連税収の見積もりは2兆2000億ディナール。また、2018年1～2月期の通常収入は前年同期比10.8%増の9101億ディナール、石油関連税収は同48.2%増の4386億ディナール。

## 5 日本との関係

●23日、小川大使は独立系仏語紙リベルテ紙のシェクリ社主を訪問。また、27日に同じく独立系仏語紙エル・ワタン紙のベルフシェット社主を訪問し、28日付同紙に記事掲載。

●24日、小川大使はハッタブ青年・スポーツ相を、28日にはジェラブ商業相を表敬し、後者においては日・アルジェリア間の経済関係の強化やアルジェリアの貿易政策について意見交換を行った。

●27日、小川大使は国営エル・ムジャヒド紙のシュルフィ社主を訪問。翌28日の同紙記事において、「アルジェリアに関する多くの事柄に強い関心が示された」と紹介。

### <アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
5月2～5日	ケニア	ブハジャ国民議会議長	ムトゥリ国民議会議長と会談。ケンヤッタ大統領を表敬
5月2～4日	クウェート	ネシブ水資源大臣	第10回アラブ諸国水資源大臣会合に出席
5月2～3日	エチオピア	ラウイア財務大臣	AU15カ国財務大臣会合に出席
5月14日	スペイン	ベドゥイ内務・地方自治・国土整備大臣	アルバレス内務大臣と会談
5月14日	ベルギー	メサヘル外務大	モゲリーニEU外務・安全保

		臣	障政策上級代表と第11回EU・アルジェリア連合評議会を共同主催
5月14～16日	ロシア	ギトウーニ・エネルギー大臣	第10回国際原子力エネルギー・フォーラムに出席。リハチェフ国営核エネルギー公社（ROSATOM）社長と会談
5月17日	エジプト	メサヘル外務大臣	イスラエルのガザ攻撃及びエルサレムへの米大使館移転問題に関するアラブ連盟閣僚級会合に出席
5月18日	トルコ	メサヘル外務大臣	イスラム協力機構サミットに係る準備閣僚会合に出席。シャーラ・リビア外務大臣と会談
5月18日	トルコ	ベンサラ国民評議会議長	ブーテフリカ大統領の代理としてパレスチナ問題に係るイスラム協力機構特別サミットに出席。アッバース・パレスチナ大統領、ハムダッラー同首相と会談
5月21日～23日	韓国	ラウイア財務大臣	第53回アフリカ開発銀行年次総会、第44回アフリカ開発基金年次総会及び第6回韓・アフリカ経済協力会議に出席
5月22～23日	フランス	ミフビ文化大臣	「アフリカ週間」の特別招待者として訪問。アズレー・ユネスコ事務局長と会談
5月27～29日	スイス	ゼマリー労働・雇用・社会保障大臣	第107回国際労働会議に出席
5月29日	フランス	ウーヤヒヤ首相	ブーテフリカ大統領の代理としてリビア問題国際会議に出席。マクロン大統領を表敬

5月29～30日	マリ	メサヘル外務大臣	クリバリ外務大臣と会談し、第13回二国間戦略委員会を共同主催。マイガ首相、ケイタ大統領、グテーレス国連事務総長を表敬
----------	----	----------	--

<外国要人のアルジェリア訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
5月2～5月3日	中国/ICPO	孟中国公安省次官/ICPO 総裁	メサヘル外務大臣ベドゥイ内務大臣、ハメル国家警察庁長官と会談。ウーヤヒヤ首相を表敬
5月3日	EU	フェルナンデス・サヘル地域担当特使	メサヘル外務大臣及びベドゥイ内務大臣と会談
5月5～7日	アラブ労働機構	マティリ事務局長	ゼマリー労働・雇用・社会保障大臣と会談。ウーヤヒヤ首相を表敬
5月6～8日	米国	ブリリアント米商工会議所国際関係担当副会長	メサヘル外務大臣及びハズベラーウィ保健・人口・医療改革大臣を表敬
5月6～8日	ボリビア	フェルナンデス炭化水素大臣	ギトウーニ・エネルギー大臣と会談
5月6～8日	モーリタニア	サレム高等教育・科学研究大臣	ハジャル高等教育・科学研究大臣と会談
5月7日	フランス	デザニョー・リビア問題担当大統領特使	メサヘル外務大臣と会談
5月8～9日	オランダ	ブロック外務大臣	メサヘル外務大臣と第3回蘭アルジェリア経済・技術協力合同委員会を共催。二国間租税協定に署名
5月9日	アラブ連盟	カバリティ・アラブ諸国商工農会議所総連盟会長	第127回アラブ諸国商工会議所連盟会議に出席。ウーヤヒヤ首相を表敬
5月11～1	国連	サラーム・リビア	メサヘル外務大臣と会談

2日		担当国連特使	
5月14日	韓国	オク環境副大臣	ゼルアティ環境・再生可能エネルギー大臣と会談
5月17日	ユネスコ	フリー・マグレブ地域代表	ミフビ文化大臣及びカウアーン報道大臣と会談
5月21日	エジプト	シュクリ外務大臣	リビア近隣三か国外相会談に出席
5月21日	チュニジア	ジヒナウイ外務大臣	同上
5月23日	リビア	ミシュリ国家評議会代表	メサヘル外務大臣と会談
5月23～27日	キューバ	オヘダ国家評議会副議長兼保健大臣	ウーヤヒヤ首相と会談
5月27～28日	ボスニア・ヘルツェゴビナ	ツルナダク外務大臣	メサヘル外務大臣, ギトウーニ・エネルギー大臣及びユースフィー産業・鉱業大臣と会談。ウーヤヒヤ首相を表敬

(了)